

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600967		
法人名	株式会社 アクト・ケア		
事業所名	グループホーム 玄々堂・久留米		
所在地	福岡県久留米市野伏間1丁目12番1号		
自己評価作成日	平成28年7月13日	評価結果確定日	平成28年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhvu_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhvu_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成28年7月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

外観は、ヨーロッパをイメージした洋館の造りで明るさを強調した施設となっています。入居者様が家庭にいるような雰囲気の中で生活できるようお手伝いをいたします。大きな施設と違い、特に細かい決まりごとはありません。また、医療面においては、24時間対応の病院と提携し、いつでもホームへの往診もあり安心です。各居室には、ベット、整理タンス、冷暖房、洗面台、クローゼットが備え付けてあり、寝具類も用意しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はH26年7月に開設された2ユニットのグループホームで、母体法人は大分や久留米市で介護施設・訪問介護事業所・居宅支援事業所等を運営している。スーパー等が立ち並ぶ国道より、1本奥に入った静かな住宅街の一角に位置し、公園も近く、毎日散歩やおやつ購入に入居者と歩いて買い物にも行ける、恵まれた環境や立地条件の中にある。管理者、ケアマネ、主任と各ユニットリーダーで積極的に改善や取り組みを行い、地域との交流も深められている。月1回のミーティングには母体法人の代表が出席し、職員の声をダイレクトに反映させている。職員研修体制も、交通費等の支給などで整えられており、職員数も多く意欲もあり、入居も満床となっている。働き易い職場で人間関係も良いとの職員の声も多い。近隣の特定入居者介護施設やグループホームと一緒に避難訓練を行ったり、近隣の施設の夏祭りに参加したりと積極的に地域との交流も進められており、今後も発展の益々期待出来る事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づいて、事業所の目標、行動指針を作成し、職員で共有している。また、各ユニットの職員で考えたユニットごとの理念を玄関に掲示して、外部の方にも目に付くようにしている。	法人理念と、昨年各ユニットの職員達で話合って作成した理念を玄関やリビングや各ユニットに掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。昨年より職員の個人目標設定をしていたが漠然としていた為、今後は理念に添って個人目標設定を考慮していく予定で、日ごろも理念の共有化を図り、理念に基づき、ケアの実践や向上に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物(運動会・敬老会等)に参加しており、町内会や自治会等と積極的に交流している。また、近所に散歩や買い物に行く際は、挨拶を交わしている。	運営推進会議には自治会長等の参加もあり、地域の行事の運動会や敬老会等に参加したり、事業所のホームだよりも、自治会にも配布している。公民館会長等とも知り合いになったことで、「お年寄りの事での困り事があった時はアドバイスが出来る」事も伝えており、来年度はキャラバンメイトの資格も取得予定で、積極的な情報発信や、地域との交流を進められている。	地域行事等に参加し交流を進められているが、地域の人々が、事業所に来る事があまり無い。今後は事業所を知って貰う為に、所内でのキャラバンメイト等の勉強会やクリスマス会等に地域の人々を招待したり、さらに地域との交流も深められる事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の敬老会に参加した際に、時間を頂き、認知症予防、生きがい対策等の講演を行った。また、中学校区の意見交換会に参加して、自治会、民生委員等の方々との交流を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回運営推進会議を実施し、利用者状況報告、行事報告、ヒヤリハット報告を行い、入居者、入居者の御家族、自治会長、介護保険課、地域包括支援センターの方々の意見を参考に処遇に繋げている。また、地域の行事予定を聞き、できるだけ参加するようにしている。	2ヶ月ごとに開催される運営推進会議は毎回案内状で家族にも通達し、自治会長や市役所職員や地域包括支援センター等が参加し、事業所の報告やアドバイス等も受けている。近隣デイサービスの夏祭りの招待を受けて参加したり、避難訓練も近隣グループホームや特定入居者介護施設と合同で行っている。運営会議議事録は会議中の写真も掲載し、判り易く議事録に纏められており、ホームだよりも議事内容を記入して送付、開示もされている。	運営推進会議で、地域行事参加等の連絡やアドバイスを受けているが、家族からは個別要望が多く、個別対応となっている事が多い。会議をさらに充実させるために、西包括圏域グループホーム交流会等を通して、他グループホームと積極的に意見交換し、交流を深め、事業所の運営に生かされる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課、地域包括支援センターの方に参加して頂いている。事故報告書を出す際は、アドバイスをもらっている。市役所主催の医療・介護従事者交流会にも参加して交流を深めている。	介護保険の更新時は介護保険課の窓口へ直接出向き、アドバイス等も受けており、包括支援センターから入居者の紹介を受けたり、市内の3か所の包括支援センターとそれぞれの交流もあり出向く事も多い。毎月の事業所のホームだよりも渡しており、市町村との連携や、協力体制の構築は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り、勉強会を開催。玄関施錠を含め、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	事業所では「身体拘束はしない」という信念の下、身体拘束は全く行っておらず、言葉遣いも気づいた時はその場で職員同士でも注意しあっており、ミーティングや申し送り等でも話し合いを行い、定期的に勉強会も開催している。たまに外に出て行こうとされる入居者には、無理にひきとめず職員が同行し、納得される迄散歩して戻っている。	

H28自己・外部評価表(GH玄々堂久留米)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を開催し、職員全員が虐待に関心を持ち、未然に虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している入居者が2名、今年度より入居者の1名が成年後見制度を利用するようになり、勉強会を行った。	日常生活自立支援事業の利用者のほか、入居後に成年後見人制度を利用された入居者もあり、実例を通して全職員へ勉強会を行っている。利用の必要性が出た時や問合せ時は、管理者や主任、ケアマネに繋げる体制が整えられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には、説明を十分に行い、納得の上でサインを頂いている。また、入居後でも面会時、電話連絡時に疑問点があれば、その都度答えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等で、入居者や御家族の意見や要望を聞き出し、全体ケア、個別ケアに繋げている。	敬老会等の後に家族と食事会を行い、家族同士の交流も図っている。面会時や雑談の中で家族の意見等の聞き取りもされるが、個別ケアでの意見が多い。意見は日々のプランの中に反映させ、その後の入居者の日常の状態の報告等も行っている。	家族より、入居者の個別の要望や意見は多いが、運営に関する家族等の意見はあまり出ていない。今後は事業所の質の向上の為に、本部等からの無記名アンケート等を出したり、運営に関する意見を吸い上げる等の取り組みを行い、事業所の運営に役立てられる事を期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングには、代表者も参加して、直接意見交換の場を設けている。	月1回のミーティングは夜勤者以外の職員は全員参加で行っている。母体事業所の代表者も出席しており、職員の声はダイレクトに反映でき、業務で必要と思われる物は高額な物でも検討して購入されている。その後各ユニット別のミーティングで、新任職員も仕事上の疑問等の解決や相談もされる。個別面談も年2回あり、日々の中でも管理者からの声掛け等も多く、相談し易い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、管理者との個人面談を行い、個々のやりたいことを取り入れた個人目標を設定し、仕事へのやりがいに繋げている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時には、特に年齢、性別の制限は設けず採用している。また、未経験者には、ゆっくりと時間をかけて独り立ちできるように配慮している。	職員は20歳～60歳代迄の職員がおり、男性職員も6名いる。2～3名は当事業所で介護が初めてと言う職員もいるが、明るい雰囲気職場で職員同士の仲も良く、働き易い。事業所より研修等に行くことも推奨されており、勤務時間に参加し、交通費も支給されている。職員の休憩時間や休憩場所も確保されており、シフト希望も言い易く、職員の趣味をレクリエーションで貼り絵や塗り絵などに活かしている。	



H28自己・外部評価表(GH玄々堂久留米)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法令遵守、プライバシーの保護、接遇マナー等の啓発を行っている。	ケアマネジャー等の実務者研修で人権学習を受けられているが、内部研修はしていない。法令遵守や接遇マナー等は年間の研修予定に位置づけられ、外部研修や内部研修が行われており、人権週間に関するポスターも玄関に貼っている。	法令遵守や接遇マナーでの研修は定期的に行われているが、さらにケアマネジャー研修会等での人権研修等資料を配布したり、DVD等でも内部研修を行ってはどうだろうか。事業所として職員の人権に対する啓発活動に繋がって行く様に、進められる事を期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、テーマを決めて勉強会を開催している。また、順番に外部研修参加の機会を設け、職員のレベルアップに繋げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが行っているグループホーム交流会に参加して、他事業所との交流を深めている。また、近隣のグループホームとは、災害時の応援体制を今後進めていく予定である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを密に取り、意思疎通の回りやすい環境作りに努め、不安な事や要望等を聞き、安心できる関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階で不安に思っている事や要望等を聞き、御家族と連絡を密に取り信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、御家族と事前面談を行い個人の意見を尊重し、本人や御家族の希望を取り入れながらサービスの確認を行っている。状態によっては他施設を紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る範囲の(洗濯物干し、洗濯物たたみ、お盆拭き、野菜の切込み等)職員と一緒にやり関係築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時、最近の状態を報告し意見を伺っている。また、電話にて御家族と連絡を密にとり状態を伝えたり、新聞にて写真を掲載し入居者の様子が分かる様に努めている。		

H28自己・外部評価表(GH玄々堂久留米)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や御家族からの外出や外泊希望時は可能な限り支援している。親戚の方や友人の方が面会に来られた際は居室に案内しお話しがしやすい環境にしている。	知人や、以前の職場の人、隣組の人などが入居者を訪ねてきたり、馴染みの美容院を家族送迎で利用し、帰りに外食や買い物に寄っている入居者もいる。近隣にお店も多く、入居者希望で個別に職員同行で外出することも多い。年賀状で状況報告を記入したり、個別に近況報告もしている。毎月事業所のホームだよりを家族に郵送しており、家族等との途切れない関係づくりを行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席等、入居者の関係性を考え臨機応変に対応している。良好な関係が築ける様日々職員が密にコミュニケーションをとり入居者の気持ちを汲み取り支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も困ったことがあれば連絡して頂く様伝えている。また、入院先に面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者との会話を大切に聞き取りを行いどのような意向があるのかスタッフで情報共有している。	アセスメントシートを入居時に作成し、その後、3か月～半年や状態変化時に、計画担当者がシートを見直している。職員1名で入居者1～2名担当し、介護計画の見直し時に職員に聞き取りを行ったり、家族や入居者から聞き取りもしており、入居者の表情や態度から、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のフェイスシートを確認し、既往歴、生活歴、生活状況、家族構成等を把握し、また、入居者と御家族から聞き取りし情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い体調管理を行っている。また、心身の状態変化があった際は朝・夕の申し送り時に報告し情報の共有をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのサービス内容に沿った介護が行われているか毎日ケアプラン実行表に記入している。実行表に記入することで職員全員が各入居者のケアプランを理解している。	毎月1回担当職員に聞き取り、計画担当者やケアマネジャーが3か月程度で定期的にモニタリングを行う。状態変化時や介護保険更新時等にサービス担当者会議も行い、介護計画を作成、申し送りノートに記入し、計画変更等が全職員に判る様にしている。職員にも介護計画についての勉強会を行っており、少し慣れてから、ケアプラン作成等も少しずつ職員に担当してもらおう予定との事。	計画的にモニタリングや担当者会議が行われ、介護計画も作成されているが、担当者会議議事録に医師等の病状的なコメントが無い為、医師や訪問マッサージ等のコメントを入れて、外部の専門家の意見も反映させた、担当者会議議事録を作成される事が望まれる。

H28自己・外部評価表(GH玄々堂久留米)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活観察シートと介護記録に一日の状態や気づき等を記入している。また、個別のケアプラン実行表を作成し見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、御家族の希望に添えるように、その時の状態をカンファレンスや申し送りで話し合い対応している。定期往診以外に、訪問歯科、訪問マッサージ等を行える体制を作っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園を散歩コースとして良く利用している。また、買い物や近隣施設の夏祭り等に行き本人らしい生活を送っていけるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に2週間に1度往診にきて頂いている。入居者の希望時は御家族と連絡をとりながら歯科、眼科、皮膚科の受診や往診を行っている。	提携医の往診を受けており、医療相談や緊急時等も提携医や看護師が訪問し、24時間対応されている。他科受診している入居者が2人おり、人工透析の方も職員の送迎で受診している。受診時の服薬変更等は申し送りノートに記入し、職員に周知し家族にも連絡している	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があればすぐにかかりつけ医の看護師に連絡し往診にきて頂いている。また、日頃から密に連絡を取り合い情報交換を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医に紹介状を書いて頂き、また、介護サマリーを作成し入院先に詳しい情報を提供している。退院に向けてソーシャルワーカーと連絡を取り合い御家族と話し合いをし、早期退院できる様支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明で、出来ること出来ないことを説明して同意を頂いている。入居後は状態の変化に応じて、かかりつけ医、御家族と話し合いを行い、終末期をイメージして御本人、御家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。	医療連携加算を取得しており、以前に2名と、今年4月に1名の看取りを行った。入居前に看取りの指針を説明し、重度化した時は提携医より、家族に説明が行われ、病院か施設で看取りかを聞き取る。看取りの場合は医療行為を行えない事を再度説明し同意書を取り、その時の入居者の状態等を職員にミーティングを行い、医師や訪問看護師等と連携を取りながら、看取り支援につなげている。	重度化し、看取りを行う時に職員に対して病状等でのミーティングが行われているが、看取りに向けての研修会は行われていない。医師等より終末期にあたっての心がけや、家族に対しての声掛けや心遣い等の勉強会を開催し、職員のスキルアップを図られる事が望まれる。



H28自己・外部評価表(GH玄々堂久留米)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の作成、緊急時対応のマニュアルを作成している。定期的に職員全員で緊急時マニュアルの確認を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に初期消火、消防署への通報、避難誘導の方法を消防署職員より指導して頂いている。また、夜間災害時に備えて、近隣施設との協力体制も作っている。	年2回避難訓練が計画され、その内1回は消防署立ち合いで行っている。夜間想定したり、近隣のグループホームや特定入居者介護施設と一緒に、避難訓練も行い、地震も追加した火災訓練を実施している。備蓄の水やおかゆやレトルト食品等は、事業所近くの配食センターで管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人物像を把握し、その人はどのような人であるのかを理解し、誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行っている。	接遇マナー等の定期的な内部研修も行っており、声掛け等は入居者に合わせて、慣れ合いにならない様に注意し、入居者を尊重した声掛けで対応している。写真の同意も得ており、毎月のホームだよりに多くの写真を掲載して喜ばれている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる場面では入居者に尋ね返答を待つようにしている。また、個人の意見を尊重すると共に安全性に配慮し希望に沿う様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活ペースや体調に合わせて希望に沿った支援をしている。また、余暇時間の過ごし方を入居者に尋ね、したい事をして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望を聞き入浴後や朝の着替えの服は準備をしている。また、定期的に訪問理美容を利用できる様にしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来ることに合わせて、味噌汁作りやおやつ作り、洗い物やお盆拭きなど、職員と一緒にコミュニケーションを取りながら行っている。	近くの法人系列の配食センターから、管理栄養士の献立によるおかず等が提供されている。事業所では、炊飯や汁物やおやつを調理しており、入居者に野菜を切って貰ったり、米とぎやお盆拭きや食器洗い等の出来る事を手伝って貰いながら、職員が調理している。治療食やムース食等も提供され、希望で豪華弁当や鉄板焼きや行事食もあり、刺身もある。管理栄養士がほぼ毎日、食事の情報を聞き取りに来て、職員の早出が検食もしており、おいしい食事の提供に努めている。	

H28自己・外部評価表(GH玄々堂久留米)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状態を把握し食事の形態、摂取方法を職員と栄養士と話し合い統一したケアを行っている。水分が入らない入居者には水分ゼリーにて対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。うがいが困難な方は口腔ウエットティッシュやスポンジを使用して清潔を保持している。希望があれば、訪問歯科を利用できるようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し定期的に声掛け、トイレ誘導をし排泄介助を行っている。なるべく自力を尊重し出来ることはして頂いている。また、骨盤底筋体操を毎日行い失敗が減る様努めている。	入居者全員の排泄チェック表を記入し、定期的な誘導で失禁を減らすことに努めている。尿失禁でパット交換が多く、気にされている入居者に対しては、骨盤底筋体操に取り組み、尿失禁を減らそうと取り組んでいる。車椅子でのトイレは職員2人で安全な介助を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により各個人の排便状態を把握し水分摂取の工夫や歩行出来る方には歩行を促している。また、歩行困難な方には腹部マッサージを行っている。必要があれば下剤にてコントロールしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、汚染時はその都度対応している。また、拒まれた際も無理せずタイミングが合う時に入浴して頂いている。	2階にユニットバスがあるが、安全の為1階で、ソファに体を預ける感覚で、浴槽をまたぐ事なく入浴できる特殊浴槽を使用している。個浴で毎回お湯を換えて、好みの湯温で入浴出来る。基本は週3回入浴だが、日曜除く毎日浴槽を使用しており、週3回以上の入浴希望者も、相談で個別対応は可能である。シャンプーや石鹸の持ち込みも可能で、たまに金柑湯等をされて楽しまれており、車いすの方は職員2人介助で安全な入浴が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方には短時間居室にて休んで頂いている。また、夜中に起きてしまう方は日中に活動量を増やす事により、夜間に良眠して頂くよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の受診記録表に薬の変更があった時は記入し、個別に薬事表を管理している。また、職員同士の声掛け確認を行い誤薬防止に努め、薬が変更になれば観察を強化している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お盆拭き、掃除等出来る方には行って頂いている。お茶の時間には、その方の好みに合わせて、コーヒーやココア等に変更している。		



H28自己・外部評価表(GH玄々堂久留米)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出行事では、普段行けない場所に行けるよう支援している。また、外に出たいという入居者にはその都度散歩と一緒に行き気分転換を図っている。	近隣に公園や商店街もあり、車椅子の方も一緒に散歩に行く事も多く、近隣の人と挨拶を交わしている。スーパーへ入居者と職員が手を繋いで、おやつ等材料等を購入に出掛けたり、花見等の季節の行事では、大型車を調達して全員で外出している。入居者や職員の希望で突発的な外出もっており、外出の機会は多く楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くにスーパーに買い物に行き、商品を選んで頂いたり、支払いをお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話は入居者に取り次いでいる。また、入居者から電話をしたいという要望があれば御家族の了解を得て、その都度支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節に応じた展示物を掲示したり、季節の花をリビングに飾り季節感を感じて頂いている。	玄関内は七夕飾りや職員の顔写真入りで掲示されている。屋内は木目で落ち着いた雰囲気、リビングにはひまわりの花等の絵が飾られており、季節に合わせて張り紙等いろいろな花等の作品を入居者や職員と一緒に作り飾られ、アットホーム的な雰囲気、ソファやテーブルでテレビを見てくつろがれていた。2階には広いベランダがあり、ガーデニングを楽しんだり、体操やおやつ作りや洗濯物を干したりと多目的に利用され、施設で犬も1匹飼われ、可愛がられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士お話しできる様リビングの席を工夫したり、テレビの前にソファを置くことで居心地の良い空間を作れるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までなじみの物や写真等使い慣れたものや見慣れたものを持ってきて頂き居心地の良い空間作りをしている。	各部屋の木製のネームプレートは名前と入居者の好きな花の写真が飾られ、裏返しにすると「避難完了」の文字で、災害時対応に使われる。室内はフローリングの床で洗面台やベットや整理ダンスは備え付け、布団も貸し出して使用でき、何も持たずに入居も可能である。入居者それぞれで、仏壇やソファやテレビ等の持ち込みもされており、持ち込みは自由で、塗り絵や写真も沢山飾られ居心地良い、空間づくりがされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に、分かりやすく表示している。また、各居室の名札に花の絵をつけ入居者の部屋が分かりやすいよう工夫している。		